

# 2023年5月期第2四半期 決算説明資料

2023年1月12日

 三協立山株式会社

## ✓ 2023年5月期 第2四半期業績は前年同期比増収減益

- ◆ アルミ地金を含めた諸資材・燃料・電力価格などの上昇影響や対応策として進めてきた価格改定の浸透遅れに加えて、急激な為替変動の影響などにより減益
- ◆ 国際事業では欧州・タイの事業環境が大きく変化する中、計画した収益改善施策の着実な遂行により利益改善が進む

## ✓ 下期見通し

- ◆ 資材価格の上昇による建設市場への影響や電力価格上昇など、依然として見通しにくい事業環境の継続が見込まれるも、価格改定の対象拡大と浸透に加えて、アルミ地金価格の上昇影響が緩和見通しとなることから、下期は期初計画を据え置く
- ◆ 欧州子会社STEP-Gではエネルギー事情の悪化やEV関連市場の停滞懸念が残るものの、資源高を踏まえた価格改定や収益改善施策の着実な遂行により、現時点で今期黒字化計画に変更なし

※金額は億円未満切り捨て表示、率は四捨五入表示

(億円)

## 業績結果

	2023/5期 2Q実績	2022/5期 2Q実績	前年同期比		2023/5期 2Q期初計画	期初計画比	
			増減額	%		増減額	%
売上高	1,871	1,650	+220	+13.4%	1,840	+31	+1.7%
営業利益	8	30	▲21	▲71.2%	21	▲12	▲58.3%
営業利益率	0.5%	1.8%	—	▲1.3p	1.1%	—	▲0.6p
経常利益	13	27	▲14	▲52.6%	20	▲6	▲33.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5	9	▲4	▲47.3%	9	▲3	▲42.8%

## 通期業績予想

(億円)

	2023/5期 通期 業績予想<今回> ※1	2023/5期 通期 業績予想<前回>		
			増減額	%
売上高	3,780	3,750	+30	+0.8%
営業利益	37	50	▲13	▲26.0%
営業利益率	1.0%	1.3%	—	▲0.3p
経常利益	40	47	▲7	▲14.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	21	25	▲4	▲16.0%

※1 2022年12月26日公表値

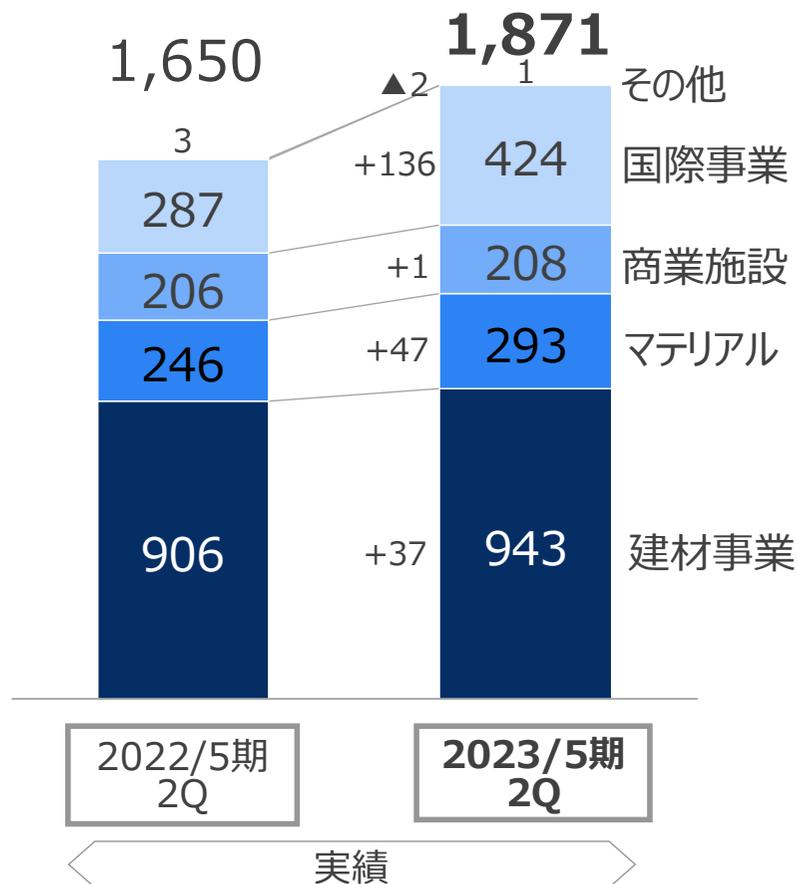
## 配当

1株当たり 中間配当 10円  
 期末配当 10円 (予定)

売上高

1,871 億円

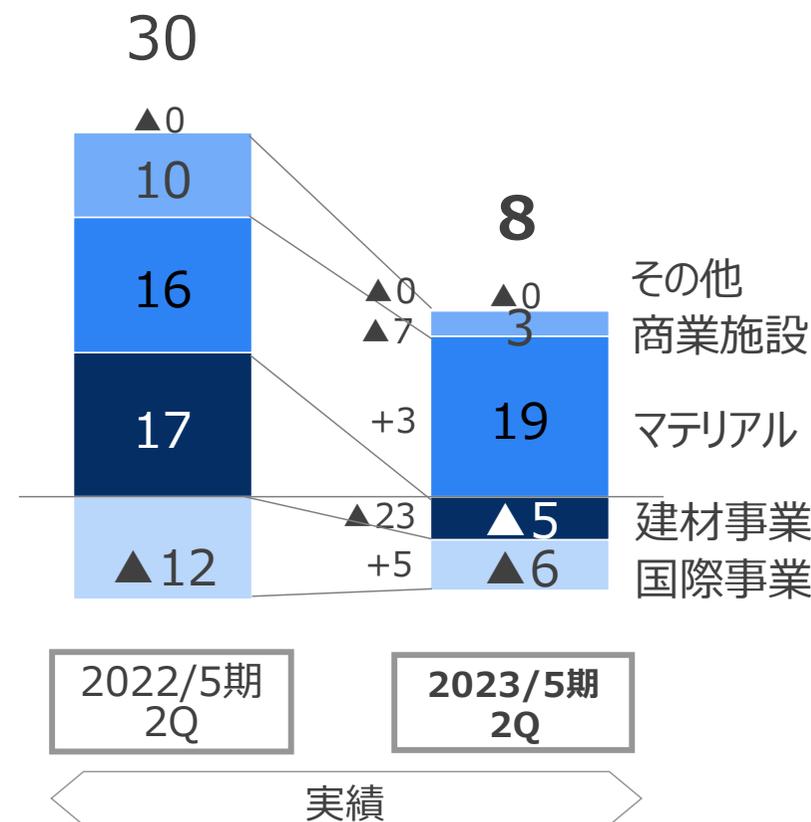
前年同期比 + 220 億円  
(+ 13.4%)



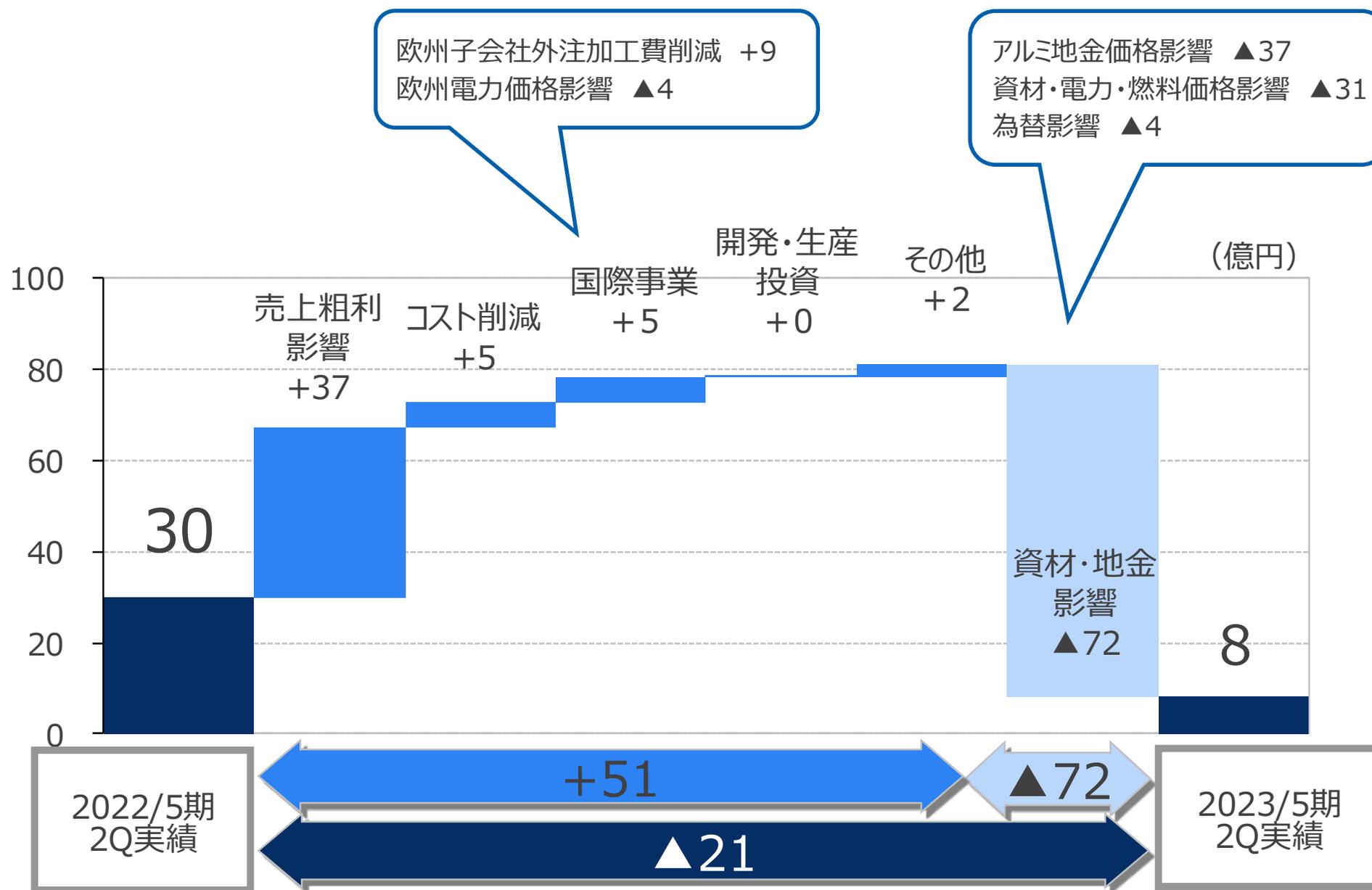
営業利益

8 億円

前年同期比 ▲ 21 億円  
(▲ 71.2%)



※金額は億円未満切り捨て表示

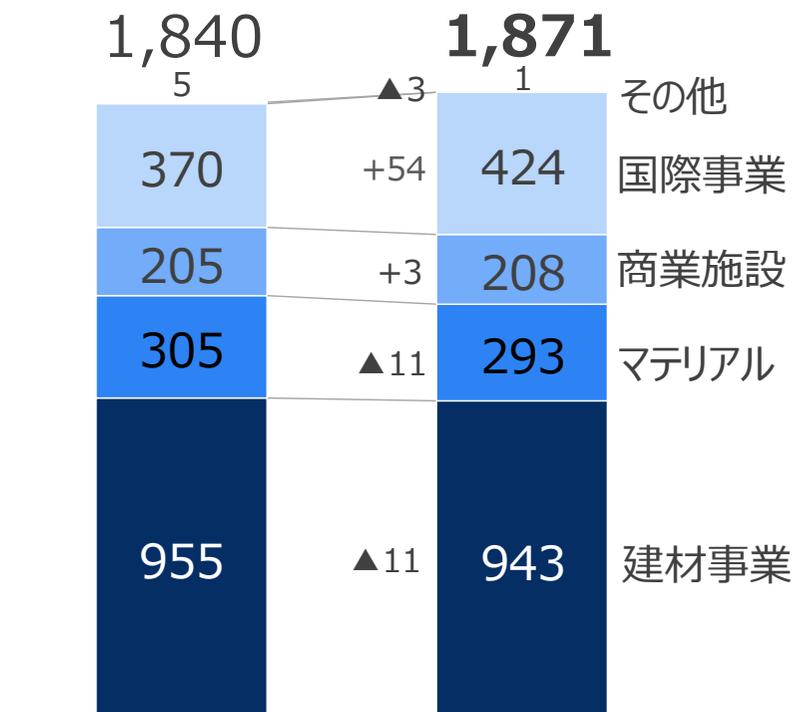


※国際事業に係る利益増減については、「国際事業」に集約  
 ※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

1,871 億円

期初計画比 + 31 億円  
(+ 1.7%)

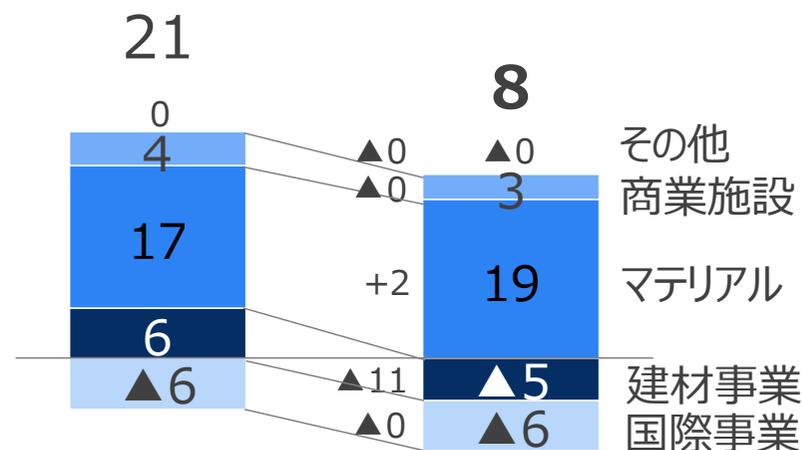


2023/5期 2Q  
 期初計画      実績

営業利益

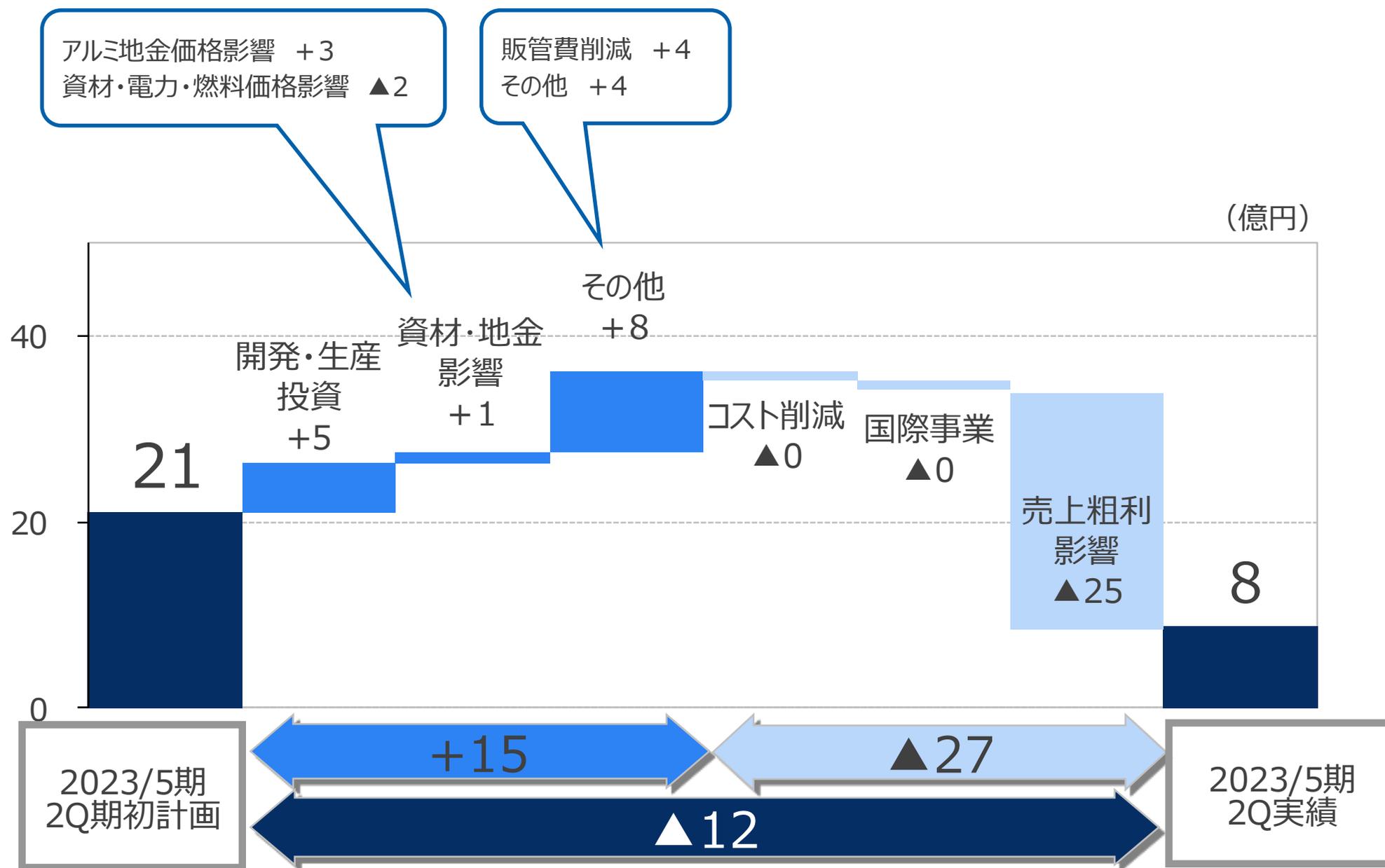
8 億円

期初計画比 ▲ 12 億円  
(▲ 58.3%)



2023/5期 2Q  
 期初計画      実績

※金額は億円未満切り捨て表示



※国際事業に係る利益増減については、「国際事業」に集約

※金額は億円未満切り捨て表示

# トピックス

## マテリアリティの具体的な取り組み内容を充実 「三協立山 統合報告書2022」公開

当社グループの2021年度（2021年6月～2022年5月）の取り組みをまとめた「三協立山 統合報告書2022」をホームページに公開。

### 主な内容

#### ■ 価値創造の戦略（長期ロードマップ）

現在から「VISION2030」、そして「サステナビリティビジョン2050」に至るロードマップを掲載し、2050年に向けて、自社の経営理念・これまでの取り組み（強み）から、当社グループが長期的に目指す方向を示す。

#### ■ 価値創造の基盤（マテリアリティの取り組み）

気候変動への対応や資源の有効活用などマテリアリティ（重要課題）に掲げた社会的課題への具体的な取り組みについて内容を充実。また、TCFD提言に基づく情報開示に対応するため、気候変動関連のリスクと機会を特定し、シナリオ分析およびその財務影響について説明。



● 統合報告書掲載ページ ➡ [https://www.st-grp.co.jp/ir/group\\_report.html](https://www.st-grp.co.jp/ir/group_report.html)





## 「2022年度 グッドデザイン賞」を受賞

### 外装ルーバー「タワースクリーン TSRシリーズ」 / 「DI（ダイナミックインシュレーション）窓」



#### ① 外装ルーバー「タワースクリーン TSRシリーズ」

ファサードのデザイン性と風騒音の抑制を両立した格子タイプの風騒音対策型ルーバー。ルーバーの角部に曲面を設けることで、ルーバーに対して風が吹きつけた際に生じる風騒音（風切り音）を低減。



施工イメージ

#### ◆ 評価ポイント

外装ルーバーの課題となる「風騒音（風切り音）」を繊細な角R形状の追求により具体化し、さらに目板にも曲面を設け大幅な課題低減を成功させた企業ノウハウと実装力を評価。

#### ② 「DI（ダイナミックインシュレーション）窓」

窓を開けずに「換気しながら高断熱」を実現する二重窓。窓と24時間換気を組み合わせることで、外窓と内窓の間に取り入れた外気を対流させ、その空気の流れて窓から逃げる熱を回収する。



#### ◆ 評価ポイント

窓の結露問題は、家を汚すだけでなく、カビによる健康被害も問題になっている中、「断熱」と「換気」の両方を併せ持つサッシは画期的。上部にあるユニットによって外気を室温に近い温度で取り入れる工夫がなされている点を評価。



## 食品ロスなどの社会的課題解決に向けた取り組み 非常用食料品を社会福祉法人に寄贈

2 飢餓を  
ゼロに11 住み続けられる  
まちづくりを

2022年10月、食品ロスなどの社会的課題解決に向けた取り組みとして、当社が備蓄している非常用食料品を社会福祉法人高岡市社会福祉協議会※1に寄贈。

当社では災害発生時に備え、全国各支店の従業員1人ずつに非常用食料品などを入れた「個人管理非常用持ち出し袋」を配布。また、帰宅困難者対策用に「非常用備蓄品」も配備。

今回、各支店の補充用として別途本社で管理している非常用食料品を寄贈。

※1 社会福祉協議会：各都道府県・各市町村にある全国組織。地域住民、ボランティア、保健・福祉の関係団体などとともに、福祉のまちづくりを推進する社会福祉法に定められた民間団体（社会福祉法人）。

### ■ 寄付品

- ・缶詰パン：504個
- ・さんま缶詰：288個
- ・鶏缶詰：384個
- ・牛肉缶詰：336個
- ・アルファ米：1,000個



寄贈式の様子

● ニュースリリース ➡ <https://www.st-grp.co.jp/news/2022news/st20221028.html>



# 2023年5月期 上期 (2022年6月～11月) 商品リリース一覧

## 2022年6月

- アルミ社/住宅 インテリア建材「AMiS室内窓」 発売
- アルミ社/住宅 床材「Sフロア 抗ウイルス加工タイプ」 発売
- アルミ社/住宅 アパートドア「AX II」 バリエーション拡充

## 2022年8月

- アルミ社/住宅 歩行者自転車用柵「ピュアライン」 バリエーション拡充
- アルミ社/ビル ビル・マンション用アルミ手すり「FINEMASTER HB/CB」 発売
- アルミ社/EX カーポート「ダブルフェース」 商品強化



SIAA  
ISO 21702  
抗ウイルス加工  
製品にウイルスが定着しにくく、  
拭き取りが容易です。

Sフロア  
抗ウイルス加工タイプ



Grows-R

## 2022年9月

- アルミ社/ビル アルミ樹脂複合サッシ「Grows (グロウス) -R」 発売
- アドバンス社 内照式「小型片面看板」をラインアップ

## 2022年11月

- アルミ社/EX 「サイクルラック」 シリーズ刷新
- アルミ社/EX 高演色照明「MIRaRIA (ミラリア)」新発売 **業界初**
- アルミ社/EX 公共向け間仕切りメッシュフェンス「STメッシュ」 発売



小型片面看板



MIRaRIA

- ニュースリリース (三協アルミ社) ➡ <https://alumi.st-grp.co.jp/news/2022news/news2022.html>
- ニュースリリース (タテヤマアドバンス社) ➡ <https://advance.st-grp.co.jp/news/>



## 住宅の省エネルギーフォームへの支援強化

# 3省（経済産業省、国土交通省および環境省）連携による補助金制度創設

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて家庭部門の省エネを強力に推進するため、住宅の断熱性の向上に資する改修などの住宅省エネ化について国が支援を行うもの。

3 すべての人に健康と福祉を	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
11 住み続けられるまちづくりを	13 気候変動に具体的な対策を

## ■ 先進的窓リノベ事業（経済産業省、環境省）

### 対象予定製品（主なもの）

※対象製品は変更になる可能性があります。

- 内窓設置
  - ・「プラメイクE II」、「プラメイク」
- 外窓交換
  - ・「ALGEO（アルジオ）」シリーズ 他

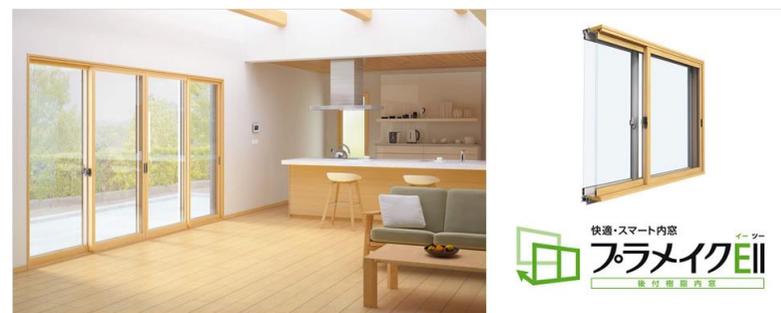


## ■ こどもエコすまいる支援事業（国土交通省）

### 対象予定製品（主なもの）

※対象製品は変更になる可能性があります。

- 内窓設置
  - ・「プラメイクE II」、「プラメイク」
- 外窓・ドア改修
  - ・「NOVARIS（ノバリス）」シリーズ



省エネルギーフォームへの大型支援制度 三協アルミホームページより

➡<https://alumi.st-grp.co.jp/hojokin/>



住宅省エネ化の支援強化に関して 経済産業省ホームページより

➡<https://www.meti.go.jp/press/2022/11/20221108001/20221108001.html>



## 型材フェンス拡販のカギ「フェンス施工治具」

型材フェンス  
「レジリア」シリーズ  
「シャトレナⅡ」シリーズ } 販売額 約 **125%** (前年同期比)



型材フェンス「レジリア」



型材フェンス「シャトレナⅡ」

販工店の職人さんの声から「フェンス施工治具」を開発

### 施工時間の短縮に貢献

フェンスの長さを調整するために、現場で発生する  
切断作業時間・・・

フェンス 1枚当たり 60分～90分 ▶ 施工治具使用により約 **15分**に短縮！（当社調べ）

フェンスを分解せず、治具の取付のみで切断作業可能 **より安全な作業が可能に！**



フェンス施工治具



## 職人ファースト

※三協アルミは、エクステリア業界で働く職人を応援するため、「職人ファースト」を商標登録しています。

### 型材フェンス拡販に貢献

「レジリア」および「シャトレナⅡ」専用の施工治具

当治具を採用する販工店が増加 ▶ 「レジリア」「シャトレナⅡ」の売上増加へ

●エクステリア事業 動画ライブラリー ➡ <https://www.exteriorworld.jp/business/movielib/index.html>



# 参考資料

	対象期間	2020年	2021年	2022年
【建材事業（住宅）指標】 新設住宅着工戸数	4月-9月	41.4万戸 (11.4%減)	44.6万戸 (7.7%増)	<b>44.3万戸 (0.7%減)</b>
新設住宅着工戸数[持家]	4月-9月	13.1万戸 (14.2%減)	14.9万戸 (13.3%増)	<b>13.2万戸 (10.9%減)</b>
新設住宅着工戸数[貸家]	4月-9月	15.6万戸 (11.0%減)	17.0万戸 (8.9%増)	<b>17.7万戸 (4.3%増)</b>
【建材事業（ビル）指標】 非木造建築物着工床面積	4月-9月	33.7百万㎡ (10.7%減)	34.2百万㎡ (1.6%増)	<b>37.5百万㎡ (9.5%増)</b>
【マテリアル事業指標】 アルミ型材押出重量[サッシ・ドア除く]	6月-11月	15.8万 t (12.0%減)	16.6万 t (5.5%増)	<b>15.7万 t (5.3%減)</b>
【商業施設事業指標】 建築着工棟数[店舗(民間建築主)]	4月-9月	2,523棟 (29.4%減)	2,791棟 (10.6%増)	<b>3,124棟 (11.9%増)</b>
【国際事業指標】 ドイツ自動車生産台数	4月-9月	137.4万台 (40.5%減)	138.8万台 (1.0%増)	<b>169.1万台 (21.8%増)</b>
タイ自動車生産台数	4月-9月	50.9万台 (49.6%減)	74.6万台 (46.4%増)	<b>88.4万台 (18.5%増)</b>
【アルミ地金価格平均値】 [日本経済新聞より]	6月-11月	233.6円/kg	363.6円/kg	<b>405.9円/kg</b>

( ) は前年同期比

売上高

セグメント利益

事業環境

※金額は億円未満切り捨て表示

(億円)

	3ヵ月実績				実績累計			
	'22/5期	'23/5期	増減	増減	'22/5期	'23/5期	増減	増減
1Q	421	<b>437</b>	+16	+3.8%				
2Q	484	<b>505</b>	+21	+4.3%	906	<b>943</b>	+37	+4.1%
3Q								
4Q								
					'23/5期 通期計画		<b>1,930</b>	

- 新設住宅着工戸数のうち持家が前年同期比で減少している中、エクステリア建材およびビル建材での売上増、特にビル改装分野が好調に推移

(億円)

	3ヵ月実績				実績累計			
	'22/5期	'23/5期	増減	増減	'22/5期	'23/5期	増減	増減
1Q	4	<b>▲7</b>	▲12	-				
2Q	12	<b>1</b>	▲10	▲86.0%	17	<b>▲5</b>	▲23	-
3Q								
4Q								
					'23/5期 通期計画		<b>18</b>	

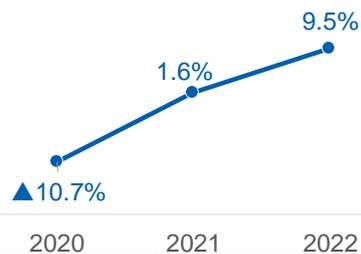
- 価格改定を進めているが、諸資材価格の上昇影響を吸収しきれず

新設住宅着工戸数 (前年同期比) ■総数 ●持家



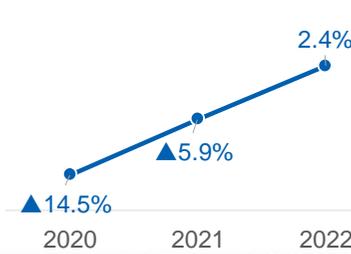
出典 国土交通省 建築着工統計調査報告

非木造建築着工床面積 (前年同期比)



出典 国土交通省 建築着工統計調査報告

ビル用アルミサッシ販売重量 (前年同期比)



出典 経済産業省 生産動態統計

※4~9月累計 アルミ地金価格[日経平均] ※6~11月6ヵ月平均



出典 日本経済新聞

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

(億円)

	3ヵ月実績				実績累計			
	'22/5期	'23/5期	増減	増減率	'22/5期	'23/5期	増減	増減率
1Q	119	<b>143</b>	+23	+19.8%				
2Q	126	<b>150</b>	+24	+19.1%	246	<b>293</b>	+47	+19.4%
3Q								
4Q								
					'23/5期 通期計画		<b>615</b>	

- 輸送分野が減少したものの、一般機械分野が好調であったこと
- アルミ地金市況に連動する売上の増加

セグメント利益

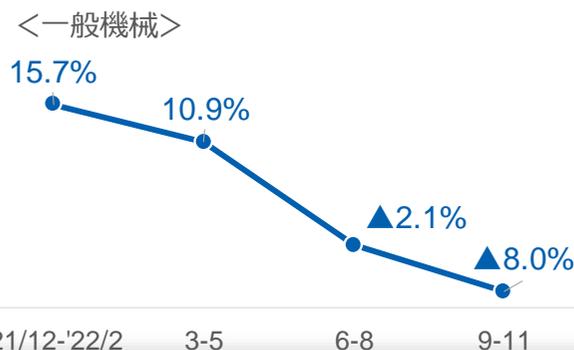
(億円)

	3ヵ月実績				実績累計			
	'22/5期	'23/5期	増減	増減率	'22/5期	'23/5期	増減	増減率
1Q	10	<b>8</b>	▲1	▲18.7%				
2Q	5	<b>10</b>	+5	+96.8%	16	<b>19</b>	+3	+21.0%
3Q								
4Q								
					'23/5期 通期計画		<b>27</b>	

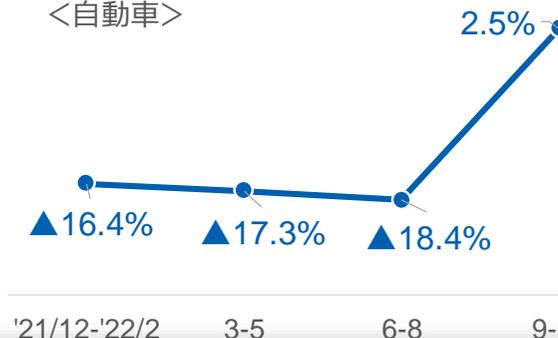
- 諸資材価格の上昇影響はあったものの、収益改善施策を実施

事業環境

国内アルミ型材押出重量  
(前年同期比)



<自動車>



出典 日本アルミニウム協会統計

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3ヵ月実績				実績累計			
	'22/5期	'23/5期	増減	増減	'22/5期	'23/5期	増減	増減
	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)
1Q	94	<b>91</b>	▲3	▲3.8%				
2Q	111	<b>116</b>	+4	+4.4%	206	<b>208</b>	+1	+0.6%
3Q								
4Q								
	'23/5期 通期計画		400					

- 小売業を中心に店舗の新規出店や改装の需要を取り込んだこと

セグメント利益

	3ヵ月実績				実績累計			
	'22/5期	'23/5期	増減	増減	'22/5期	'23/5期	増減	増減
	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)
1Q	3	<b>0</b>	▲3	▲85.1%				
2Q	6	<b>2</b>	▲3	▲60.2%	10	<b>3</b>	▲7	▲69.8%
3Q								
4Q								
	'23/5期 通期計画		6					

- 諸資材価格の上昇に対して価格改定などを進めているが、円安による為替影響などを受ける

事業環境



出典 国土交通省  
建築着工統計調査報告



出典 経済産業省  
商業動態統計調査

※4~9月累計

※金額は億円未満切り捨て表示

売上高

	3ヵ月実績				実績累計			
	'22/5期	'23/5期	増減	増減	'22/5期	'23/5期	増減	増減
1Q	144	<b>202</b>	+58	+40.7%				
2Q	143	<b>221</b>	+78	+54.6%	287	<b>424</b>	+136	+47.7%
3Q								
4Q								
	'23/5期 通期計画						<b>790</b>	

- アルミ地金市況に連動する売上の増加
- 為替影響、欧州の自動車分野が堅調に推移したこと

セグメント利益

	3ヵ月実績				実績累計			
	'22/5期	'23/5期	増減	増減	'22/5期	'23/5期	増減	増減
1Q	▲ 4	▲ <b>10</b>	▲ 6	-				
2Q	▲ 8	<b>3</b>	+11	-	▲ 12	▲ <b>6</b>	+5	-
3Q								
4Q								
	'23/5期 通期計画						▲ <b>3</b>	

- エネルギー価格の上昇などの影響
- 欧州子会社にてコスト改善施策を進めたこと

事業環境



## 貸借対照表

2022/5期

2023/5期 2Q

(億円)

流動資産 1,416	流動負債 1,218
	固定負債 610
固定資産 1,267	純資産 856

流動資産 1,521	流動負債 1,279
	固定負債 627
固定資産 1,283	純資産 898

	2022/5期 期末	2023/5期 2Q期末	前期末比
総資産	2,684	2,805	120
自己資本	825	867	41
自己資本比率	30.8%	30.9%	0.1pt
有利子負債	703	789	86
有利子負債比率	85.2%	91.0%	5.8pt

※ 金額は億円未満切り捨て表示、率は四捨五入表示

※ 自己資本：純資産 - 非支配株主持分

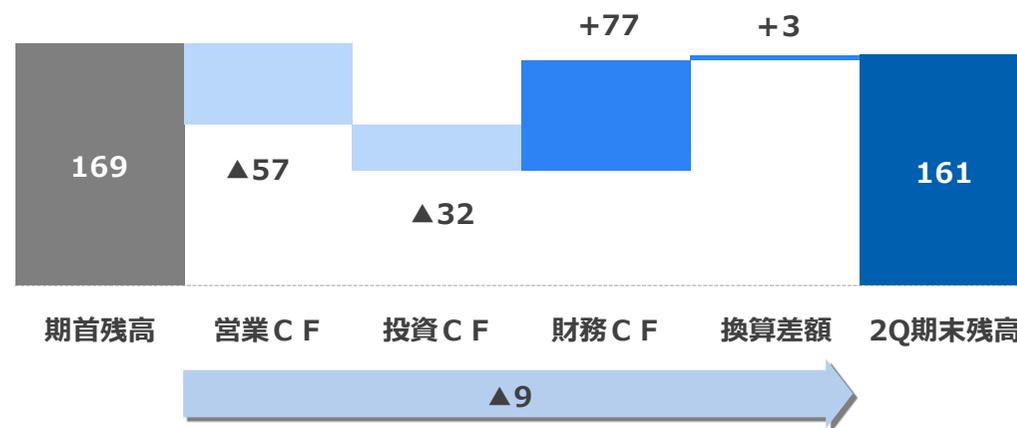
自己資本比率：自己資本 / 総資産

有利子負債：短期借入金 + 長期借入金 + 社債

有利子負債比率：有利子負債額 / 自己資本

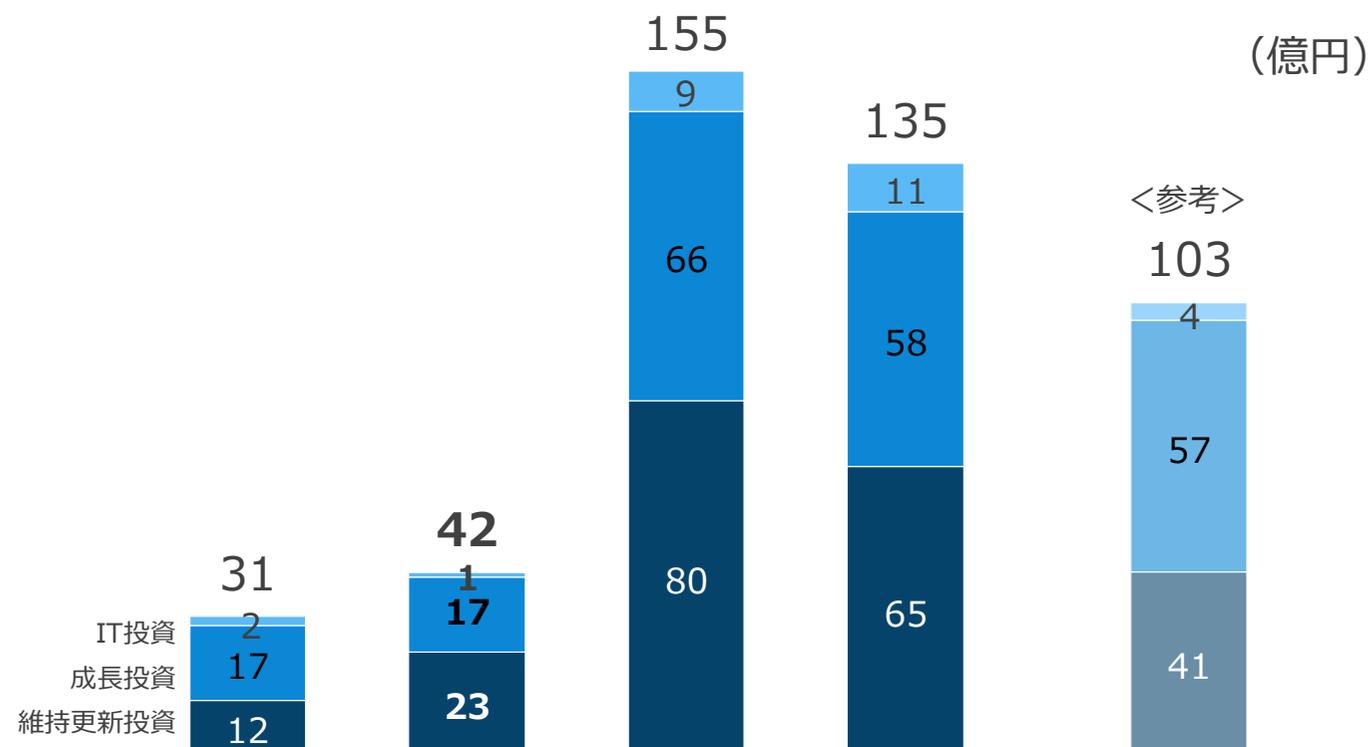
## キャッシュ・フロー

(億円)



営業CF	▲ 57	投資CF	▲ 32	財務CF	77
税金等調整前 当期純利益	11	有形固定資産の 取得による支出	▲40	短期借入金純増減 (▲は減少)	53
減価償却費	39	その他	7	長期借入れによる 収入	120
売上債権の増減 (▲は増加)	▲66			長期借入金の 返済による支出	▲90
棚卸資産の増減 (▲は増加)	▲52			配当金の支払額	▲1
仕入債務の増減 (▲は減少)	0			その他	▲3
法人税等の支払額	▲9				
その他	19				

※ 金額は億円未満切り捨て表示



《内訳》	2022/5月期 2Q実績	2023/5月期 2Q実績	2023/5月期 期初計画	2023/5月期 見直し計画	2022/5月期 実績
維持更新投資	12	23	80	65	41
成長投資	17	17	66	58	57
IT投資	2	1	9	11	4
合計	31	42	155	135	103
(うち海外子会社)	(12)	(17)	(49)	(53)	(53)

減価償却費	37	39	86	81	80
-------	----	----	----	----	----

※金額は億円未満切捨て表示

## 【 連結および持分法の適用範囲 】

(社)

	2022/5期 期末	2023/5期 2Q期末	前期末比
連結子会社	47	<b>47</b>	0
持分法適用会社	7	<b>7</b>	0
合計	54	<b>54</b>	0

## 【 人員の状況（正社員） 】

(名)

	2022/5期 期末	2023/5期 2Q期末	前期末比
三協立山	5,034	<b>4,974</b>	▲ 60
連結子会社	5,341	<b>5,331</b>	▲ 10
合計	10,375	<b>10,305</b>	▲ 70

## 【 計画前提・実績 】

		期中 平均値	2022/5期 2Q実績	2023/5期 前提 (通期)	2023/5期 2Q実績
アルミ地金価格 (日本経済新聞)		6~11	363.6円/kg	405.0円/kg	<b>405.9円/kg</b>
為替	ドル	4~9	109.8円	130.0円	<b>134.0円</b>
	ユーロ	4~9	130.9円	130.0円	<b>138.8円</b>
	パーツ	4~9	3.4円	3.5円	<b>3.8円</b>
	元	4~9	17.0円	20.0円	<b>19.9円</b>

# サステナビリティビジョン2050 Life with Green Technology

～「環境技術でひらく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～

## カーボンニュートラルへの挑戦

事業活動に伴う温室効果ガス排出削減と、環境技術で創出する商品・サービスによる温室効果ガス排出削減とのバランスにより、カーボンニュートラルを目指す。

## 資源の循環

循環型社会の実現に向けて、主要原材料の循環使用の促進と、廃棄物の再資源化を推進。

## 人財を未来へつなぐ

多様性や人権を尊重し人材育成を推進することで活力ある企業風土を創出し、豊かな暮らしを実現する原動力となる「人財」を未来につなぐ。

### 2030年目標

#### 温室効果ガス排出量

2013年度比で 50% 削減

対象：国内グループ Scope1+2

循環アルミの使用を促進

女性管理職比率 10%

### E 環境



### S 社会



### G ガバナンス



#### 【本資料に関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、三協立山株式会社および連結子会社（以下、総称して「三協立山グループ」という）の計画、戦略、業績などの将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から得られた三協立山グループの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しています。それらの影響により、三協立山グループの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、三協立山グループが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えるリスク、不確実性およびその他の要因としては、三協立山グループの事業領域を取り巻く経済情勢、三協立山グループの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化、為替相場、アルミ地金などの価格変動が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

本資料の複製・転載はお断りします。